

2019年度しあわせ研究

エコプロ 2019 における展示

研究員 高橋和枝、明石修、
伊尾木慶子、一方井誠治
門多真理子、磯部孝行
田所裕康、真名垣聡



内には、研究を紹介するポスターの他に、小型家電リサイクルの必要性を学習するために解体した携帯電話のサンプルなども設置しました。

2015年9月、国際連合によって持続可能な開発目標アジェンダが採択されました。この持続可能な開発目標は、SDGs とよばれ 17 のゴール 169 のターゲットによって構成されており、これら目標達成に向けた方策を思案するためには、多様な専門分野からのアプローチが必要です。一方、本学環境システム学科は、文理融合による多様な専門分野を配置している学際的な学科であり、多様なバックグラウンドを持つ教員が集まっています。そこで、各専任教員の専門分野を活かして、SDGs 達成に向けた課題やアプローチ方法を具体化するため、本学科の8名の教員が、有明キャンパスやその周辺地区を対象とした共同研究を2019年度に開始しました。その活動の一環として、東京ビッグサイトで2019年12月5日から7日まで開催されたエコプロ2019で、SDGs の達成を目標とした研究に従事されている本学グローバル学部グローバルビジネス学科、武蔵野大学附属千代田高等学院・千代田女学園中学校と共同で行いました。図1にその様子を示します。ブース



図1 エコプロ展示ブース

3日間、見学者は途切れることがなく、大勢の方からコメントや質問をいただくことができました。同時に行った見学者の方へのアンケート（有効回答数216）を集計したところ、大学生がSDGsに取り組むことに対して「取り組むことは当然」(12%)、「取り組むことが好ましい」(78%)という回答を得ました。このことから大学が主体的にSDGsに取り組むことに対して、社会からの期待が高まりつつあることが感じられます。今後、さらにシナジー効果を活かした研究を行い、SDGsの達成により、世界のしあわせをカタチにすることに寄与していきたいと思えます。